

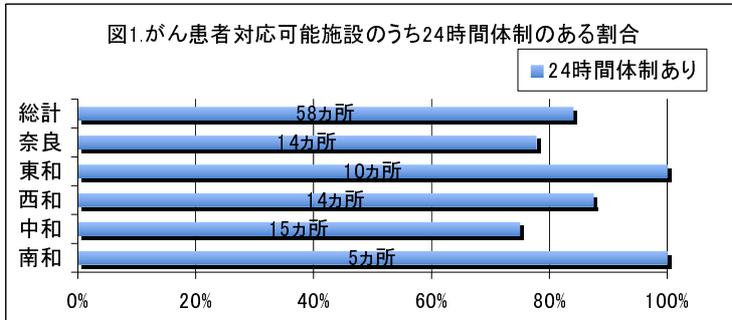
# 《結果概要》

表1. 平成23年8月の患者数とそのうち悪性新生物を主病名に持つ患者数

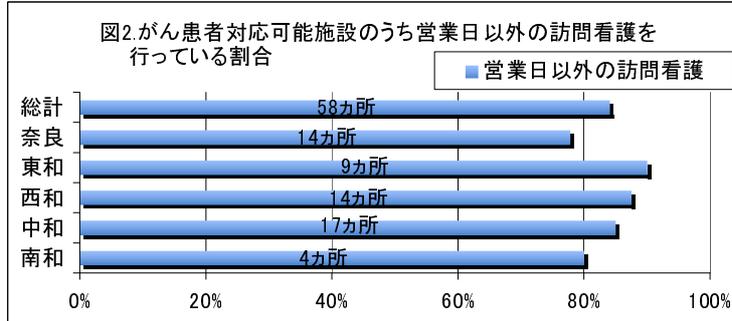
医療圏	患者数	うち悪性新生物	
奈良	1,544	99	6.4%
東和	608	44	7.2%
西和	877	61	7.0%
中和	1,382	64	4.6%
南和	215	15	7.0%
<b>総計</b>	<b>4,626</b>	<b>283</b>	<b>6.1%</b>

表2. がん患者への対応可能施設数

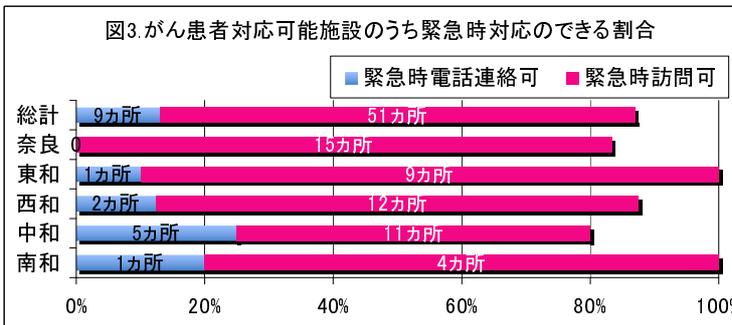
医療圏	回答数	がん患者訪問可能数	
奈良	21	18	85.7%
東和	10	10	100.0%
西和	16	16	100.0%
中和	21	20	95.2%
南和	5	5	100.0%
<b>総計</b>	<b>73</b>	<b>69</b>	<b>94.5%</b>



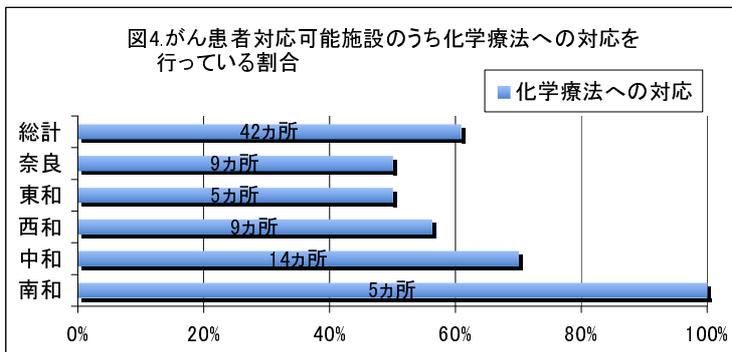
がん患者の対応可能な69施設のうち、24時間対応の体制のある施設は、58カ所(84%)であった。医療圏毎では、東和、南和医療圏の施設では、がん患者対応が可能な施設はすべて24時間体制であった。



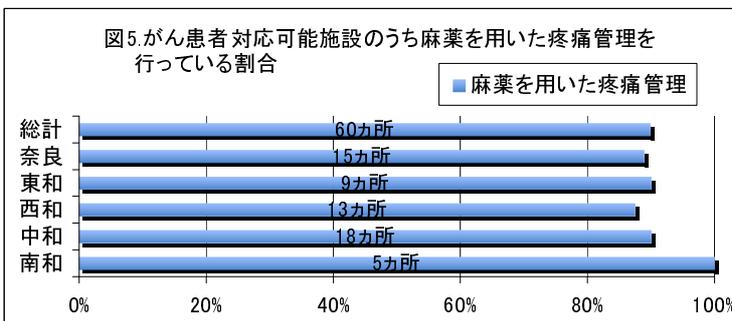
がん患者の対応可能な69施設のうち、営業日以外の訪問看護を行っている施設は、58カ所(84%)であった。



がん患者の対応可能な69施設のうち、60施設が電話連絡または訪問可能であり、電話連絡可が9カ所(13%)、訪問可が51カ所(74%)であった。



がん患者の対応可能な69施設のうち、42施設(61%)が化学療法への対応を行っていた。医療圏毎に50%~100%と対応へのばらつきが見られた。



がん患者の対応可能な69施設のうち、60施設(87%)が麻薬を用いた疼痛管理を行っていた。化学療法への対応と比較すると、疼痛管理は実施されている割合が高かった。